



老後のお金や社会保障のテーマでテレビやマネー雑誌でご活躍中の社会保険労務士の井戸 美枝氏に、将来のお金の不安解消について教えていただきました。

最近のデータによると、95歳まで生きる可能性は、男性なら約10%、女性は約25%です。女性の4人に1人は95歳まで生きる時代。定年から35〜40年と長い時間があります。健康の不安、お金の不安、考えたらいろいろと心配ごとが増えそうです。でも、過度な心配はいりません。

私たちには、生まれてから亡くなるまで一生涯の保障(社会保険)があります。社会保険は「防貧」という役割を担っています。つまり国民が貧しくなるのを防ぐ機能です。生活保護は「救貧」なので、ミーンズテスト(資力調査)を行って、人々の生存権を保障する金額を個々に決めていきます。つまり、社会保険を知ることが、どの程度の保障があり、このくらしのお金があれば困らず安心、このくらしの貯めよう、使おうとすることが出来るわけです。

セカンドライフで気になることは、医療、介護、年金でしょう。

いきいきとくらすために 知っておきたい社会保険

人生100年時代。よく目にする言葉です。楽しみでもありますが、不安もあるでしょう。お金を心配することなくくらすには、社会保険の知識はかせません。難しいことはありません。病気や介護が必要になったら、老後はどのくらいの保障があるか。改正も含めて知っておくと安心につながります。

① 医療、介護のお金を どの程度かけたいか

病気や介護は、いつ訪れるかわからないし、いくらかかるのかもわかりません。しかし、医療保険は、高齢期には負担も少なくて済みます。介護保険は、世帯で1ヶ月4万4400円までしか負担はありません。しかし、それだけでは介護サービスが足りないときに、いくら上乗せのサービスを頼むのか、終の住処はどうするのかなど、それぞれです。いくらまでだったら介護をのぞむのか、夫婦で話しておくことも大切です。

② 年金の額を 把握している

公的年金は、一生涯受け取れるので、退職後の支えとなります。何歳からいくら受け取れるのかご存知ですか?ねんきん

定期便などで簡単に確認できます。夫婦で年金カレンダーを作ってみることをおすすめします。

③ 自分たちなりの夫婦像、 生活、くらし方が わかっている

不安なのは、その正体がわからないからです。漠然とした不安を抱えたままの生活は、ちつとも楽しくありません。いつまでたってもお金のストレスから逃れられないでしょう。

これからどんな生活を送りたいのか、いつまでどんな仕事をしていきたいのか、これからのことを考えるのは自分自身です。

漠然としたお金の不安を放置せず、社会保険を知り、どう解決するのかを考え、セカンドライフを組み立てる上で、とても重要です。

おうちで

井戸先生のくらしの見直しweb講演会

社会保険を知ること生活不安を解消!

自粛や休業などでくらしに影響が出た場合の補償や、今後のくらし方や社会保障の変化などをZoomにてお話いただけます。

時 6/27(土) 13:30~14:30 ※変更になる場合があります
【準備物】インターネットにつながる環境のパソコン、タブレット(Wi-Fi環境推奨)
※Zoomの設定は各自お願いします

● 無料 ● 50人(組合員限定)
締 6/20(土)

詳細・お申し込み先(電話受付不可) ▶
※締切後メールで詳細をお送りします



PROFILE



CFP®・社会保険労務士
井戸 美枝氏

講演や執筆、テレビ、ラジオ出演などを通じ、生活に身近な経済問題をはじめ、年金・社会保障問題を専門とする。社会保障審議会企業年金・個人年金部会委員。確定拠出年金の運用に関する専門委員会委員。経済エッセイストとして活動。「難しいことでもわかりやすく」をモットーに数々の雑誌や新聞に連載を持つ。近著に『身近な人が元気なうちに話しておきたい お金のこと 介護のこと』(東洋経済新報社)『100歳までお金に苦しくない 定年夫婦になる!』(集英社)『届け出だけでももらえるお金』(プレジデント社)『一般論はもういいので、私の老後のお金「答え」をください!』(日経BP社)などがある。著書多数。